

3 月 園 だ よ り

令和 7. 2. 20 No.1

かきの木幼稚園

園長 川井直子

えんちょうのふでばこ

再び「野火止用水」

学生時代にはキャンパスの近くを「玉川上水」が流れていて、その川沿いの道を辿りながら講義を受けに行ったものだ。

あたりは国木田独歩の「武蔵野」に描かれた景色が広がっていた。

野火止用水も、玉川上水の下流から細い水路が静脈のように引かれて行き、多くの人々を支える生活用水となっていく。

幼い頃、広範囲に自分の足で遊びまわっていた私には、

この「野火止用水」が身近にあった。

川によつては「カワニナ（ホタルのエサになる貝）」「二枚貝」「メダカ」

あるいは「何もいない」等々。

「何故、川によつて棲むものが違うのだろうか？」と素朴に不思議に思ったものだ。他にも不思議は沢山あった。

大きな川や河は、地域のインフラとして必要な役割がある。

それに劣らず小さな川も人々の生活や文化の背景にそれなりに重要だ。

ところで、国の政策に教育はかなり影響を受ける。

全体的に変化の必要性は認めるが、

人の生活に関わる事柄には国の文化、歴史に関わる重要な役割もある。

幼児教育の積み上げられた歴史は、

どんな状況に置かれてもしっかりとした「光」を秘める。

子どもたちの人間関係と学習（教育）の場は揺るぎない。

